

Urban Design Smart City School

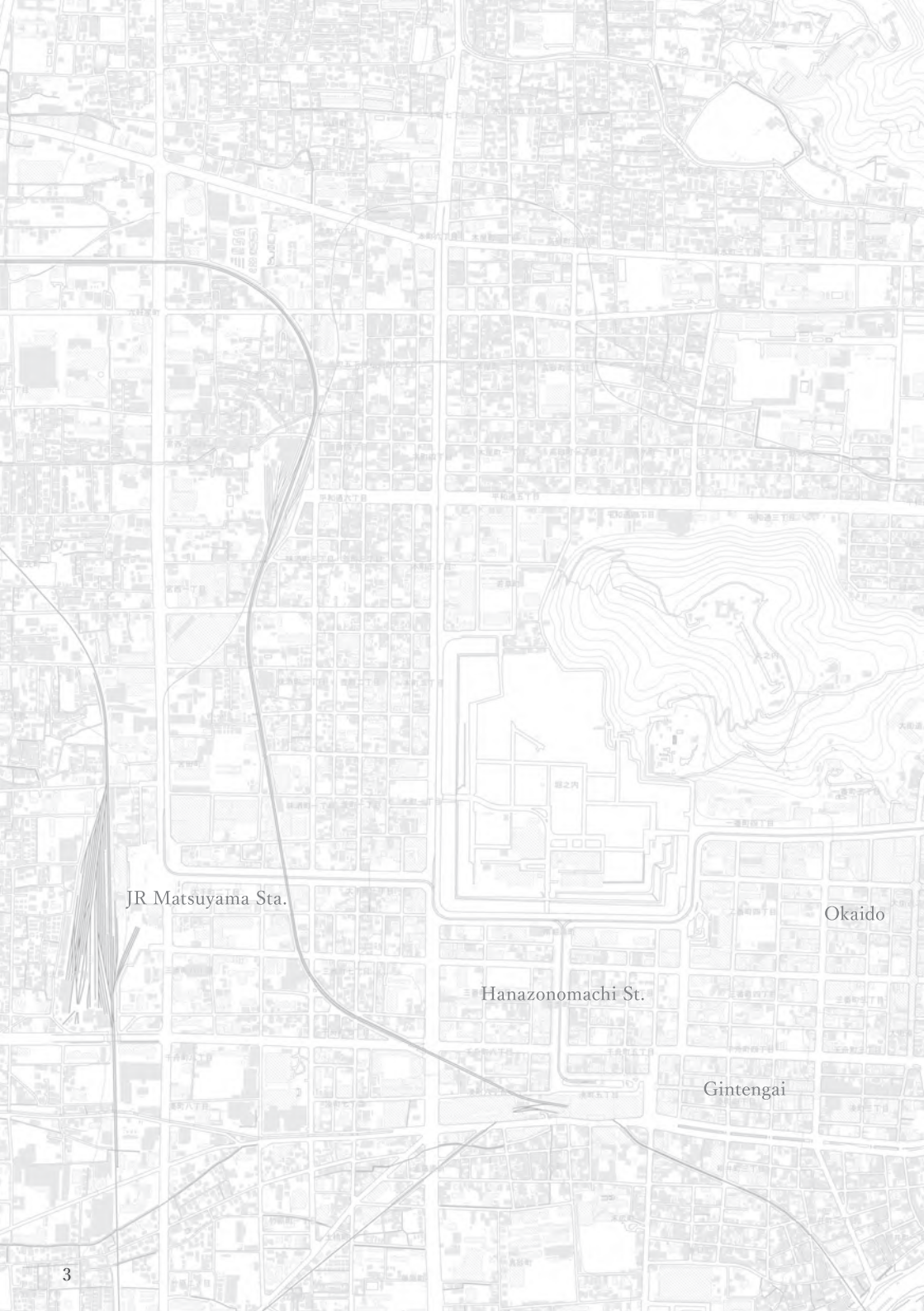
Project Report

Matsuyama



2021.7-2022.4

アーバンデザイン・
スマートシティスクール松山
プロジェクトレポート
2021.7-2022.4

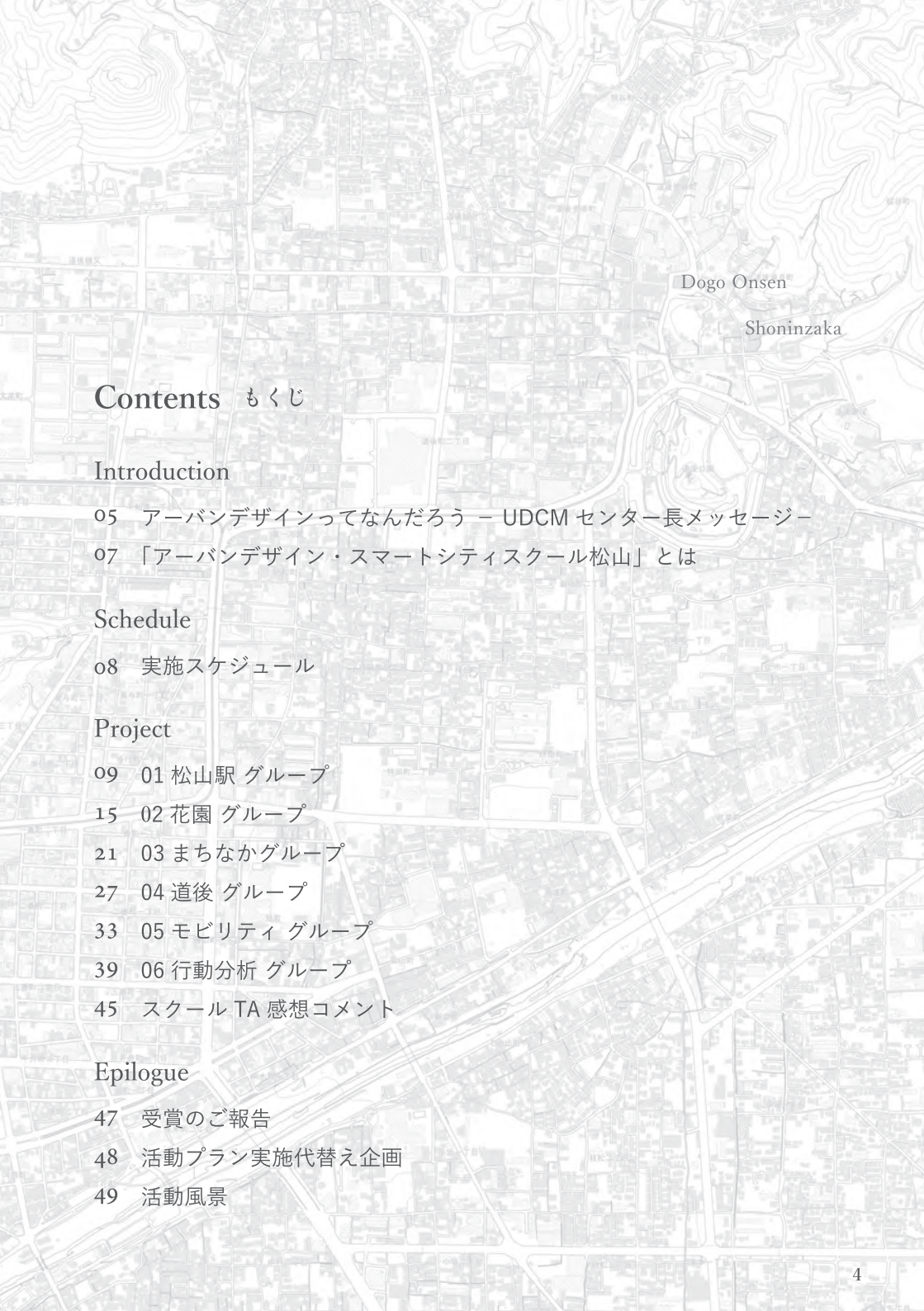


JR Matsuyama Sta.

Hanazonomachi St.

Okaido

Gintengai



Contents もくじ

Introduction

- 05 アーバンデザインってなんだろうーUDCM センター長メッセージー
- 07 「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」とは

Schedule

- 08 実施スケジュール

Project

- 09 01 松山駅 グループ
- 15 02 花園 グループ
- 21 03 まちなかグループ
- 27 04 道後 グループ
- 33 05 モビリティ グループ
- 39 06 行動分析 グループ
- 45 スクール TA 感想コメント

Epilogue

- 47 受賞のご報告
- 48 活動プラン実施代替え企画
- 49 活動風景

アーバンデザインってなんだろう

UDCM センター長 / 東京大学 教授

羽藤 英二 Eiji Hato



自分たちがまちに対して何ができるか、何かをやってみるということを通じて、まちづくりの担い手として学生さん、企業の方々、行政の方々、さまざまな人が一緒にあって新しいまちづくりのやり方そのものを生み出し、踏み出していくために企画を意図して、この1年間、アーバンデザイン・スマートシテスクールを続けてきました。

「アーバンデザインってなんだろう」って始める前は皆さん思っていたと思うんですよ。「建築設計とは何が違うんだろう」とか、よくわからないですよ。ただ、代替え企画でつくった映像作品が、アーバンデザインそのものだと思います。それぞれの敷地でやってることはバラバラでも、それを繋げることで初めて意味が出てくる、それがアーバンデザインです。COVID-19の関係で、残念ながら皆さんの活動を地域の方々と共有するということは叶いませんでした。非常にそのことを悔しく思っております。思えばこの2年間、思うようにならないことの連続を、まちに関わっておられ

る方みんなが感じてきたんじゃないかなと思います。受講生の皆さんも実際に活動したことで、すぐに結果が出るわけではないということを経験し、まちづくりって簡単じゃないなと実感したと思います。ただ、そういう中だからこそ気づくことがあるし、学べることもある。今まで自分たちが知っていたこと、わかっていると思っていたことが通用しない中で、いったんこれまでの学びを忘れて現場で学び直すことで、上手くいかなかったこともあったかもしれませんが、その学び直しの中で“アーバンデザイン”と“スマートシティ”と言うことが、皆さんの頭と体の中に、人と人とのつながりを通して、ちゃんと入っていったのではないかと思います。

こういう機会をつくるということに対して支援していただいています、野志市長をはじめとする松山市の皆さまに心より感謝を申し上げますとともに、何より頑張っていたいただいた受講生の皆さん、本当に修了おめでとうございます。

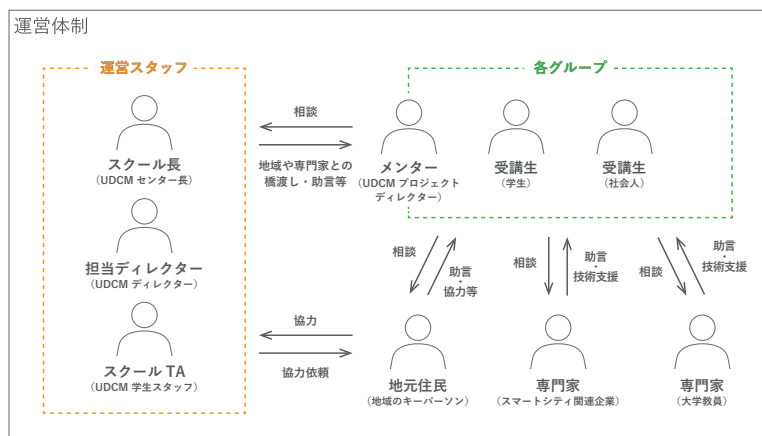
2022年4月29日スクール修了式での挨拶より



「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」とは

「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」は、地域資源を生かし、新たな公共空間の構想と計画を実践する市民参加型学習プログラムです。受講生はプロジェクトグループに分かれ、それぞれが対象とする敷地の歴史的成り立ちを踏まえた実践的なまちづくり活動を学ぶ場としています。また、さまざまな受講者同士が互いの敷地をモビリティで結びつけ、景観とツーリズムがどのような相互作用を生み出すのか、滞在時間、訪問頻度などの計量化によるまちの魅力再評価を通じて、今までにはないまちづくりを学ぶ工夫を施しています。令和3年度は、40名の受講生が6グループに分かれて、オンラインでの座学・討議と並行して、グループごとにまちづくりの実践活動プランづくり（まちに貢献するプログラム開発や情報・数理データ分析など）に取り組みました。

各グループにはUDCMプロジェクトディレクターをメンターとして配置し、グループの受講生たちに助言をおこないながら、活動に伴走する役割を担いました。また運営スタッフは、各グループに対して、適宜、協力者（地域のキーパーソンや大学教員などの専門家）との橋渡しやグループワークの進め方などの助言や補助をおこないました。



2021.

7.23

第1回 講義 事例紹介①

「外部空間の使い方」講師：伊藤 香織（東京理科大学 教授）
「データ分析の面白さ」講師：大山 雄己（芝浦工業大学 准教授）

7.30

第2回 講義 エリア紹介①

「花園町通りの特徴と課題」講師：重松 建宏（花園町東通り商店街組合）
「道後温泉地域の特徴と課題」講師：山澤 満（道後温泉誇れるまちづくり推進協議会）

9.3

活動コンセプト発表会

各グループが活動コンセプトを発表し、コメンテーターの方々からご講評いただきました。

コメンテーター：野志 克仁（松山市 市長）、松本 啓治（坂の上の雲ミュージアム 総館長）、重松 建宏（花園町東通り商店街組合）、山澤 満（道後温泉誇れるまちづくり推進協議会）、園田 修也（ひめぎん情報センター）、古谷 純（日立製作所）、羽藤 英二（UDCM センター長）、松村 暢彦（UDCM 副センター長）、四戸 秀和（UDCM プロジェクトディレクター）



10.8

第3回 講義 エリア紹介②

「松山のまちなかの成り立ち」講師：松本 啓治（坂の上の雲ミュージアム 総館長）
「聖地 道後の歴史」講師：胡 光（愛媛大学法文学部 教授）
「上人坂の空間再生と効果の見える化」
トークゲスト：小林 里瑳（東京大学大学院 博士課程）、奥村 敏仁（大和屋本店旅館 代表取締役社長）、力村 真由（多摩美術大学 副手）

11.12

第4回 講義 事例紹介②

「デュアルモード・ソサイエティにおける交通防災まちづくり ～豊洲スマートシティの取組み～」
講師：大村 珠太郎（清水建設）
「IHIの豊洲スマートシティの取り組みについて ～気象・交通の計測技術を中心に～」
講師：寺田 基、河村 清美、大野 正夫（IHI）
「デジタルツインで創る未来都市 ～強靱でスマートなまちづくり～」講師：佐々木 康弘（NEC）
「利便性だけじゃダメ！人類全てに優しくあるべきスマートシティ」
講師：辻 早紀（一般社団法人 One Smile Foundation）

12.3

活動プラン発表会

各グループが活動プランを発表し、コメンテーターの方々からご講評いただきました。

コメンテーター：伊藤 香織（東京理科大学 教授）、大山 雄己（芝浦工業大学 准教授）、羽藤 英二（UDCM センター長）、松村 暢彦（UDCM 副センター長）、羽鳥 剛史（UDCM 副センター長）



2022.

4.29

スクール修了式

スクール受講生や関係者などがオンラインと現地会場に集まり、受講生インタビューリレー動画『未開催ツアー』のお披露目と修了証・記念品の授与をおこないました。

コメンテーター：野志 克仁（松山市 市長）、羽藤 英二（UDCM センター長）、松村 暢彦（UDCM 副センター長）



Project 01

松山駅グループ

Member | 橋本 美月、福富 涼加、八代 優志、崎山 久美子、眞部 良輔、太宰 誠、横井 恭佑

Mentor | 芝原 貴史



Area introduction

松山駅は1927年に鉄道省*予讃線の駅として開業した歴史の長い駅です。開業後は1953年の戦後復興改築や1964年の増改築工事、2000年のリフレッシュ工事を経て、現在の木目調のレトロな内装の駅舎になりました。2008年からは愛媛県「JR松山駅付近連続立体交差事業」の一環として、鉄道路線の高架化、路面電車の延伸、駅舎のバリアフリー化、西側駅前広場新設、松山市による土地区画整理事業や街路整備などが進められています。これら事業の完了によって、東西市街地の分断、交通渋滞といったまちの課題解消が期待されています。

*日本国有鉄道、四国旅客鉄道株式会社の前身





芝生広場でゆったり豊かな「駅待ち時間」を

松山駅は、約1万4000人の通勤・通学客が毎日利用する駅であると同時に、観光客が松山を電車で訪れる際に最初に降り立つ愛媛県松山市の玄関口です。その一方で、公共交通機関を利用して移動する場合、道後温泉まで約35分、大街道まで約20分とアクセスがやや不便であり、駅待ち時間が発生してしまうという課題を抱えています。そこで、私たちは、交通結節点である松山駅での駅待ち時間

を、駅利用者にとって、もっと楽しく・短く・豊かなものにしたいと考え、駅前芝生広場の仮設及びランタンイベント開催を企画しました。誰もが気軽に立ち寄り、自由に使うことのできる場所を提供すること、参加型の光のイベントを開催することで、憩いの広場の実現を目指します。街と街を繋ぐ「駅」という場を、人々の心と記憶に寄り添う空間にしたいと思い、企画に取り組みました。



1 駅前芝生広場の仮設

約 60㎡の人工芝の上にテントやハンモック、クッションなどを設置し、来場者が駅前で読書や昼寝をしながらのんびりできる空間を考えました。また、ストーブや毛布を準備し、暖かく過ごすことのできる工夫をしました。



2 ランタンづくりワークショップ

松山駅を温かく照らすランタンづくりワークショップを企画しました。駅舎の南側・北側の2つの広場に用意したランタン作製ブースで、大きさ 25 × 43cmの和紙に文字やイラストを描いてオリジナルのランタンづくりができます。



3 ランタン点灯

ワークショップで作製したランタンを日の入り後1時間点灯させる展示を考えました。駅前を訪れる人々が広場に散りばめられた手作りの温かい灯りを楽しむことができるような企画としました。

From Commentator



松村 暢彦

愛媛大学 教授 /UDCM 副センター長

待つってやっぱりすごい素敵なことなんですよ。それについて臨床哲学者の鷲田さんが本に書いているので読んでみてください。自分たちがやろうとしているような事が哲学的にどういう意味を持てるのか言語化できると思います。あと、ランタンって今の世界と別のところをつなぐような照明って感じがあるので、そのランタンから誘われる空間を全く違う異次元みたいな、そんな仕立てにしてもらえると、幻想的な風景が広がるんじゃないかなと思うんです。その辺の期待が大きいですね。

2021年12月3日ブラン発表会での講評より

スクール活動を終えて

横井 恭佑

社会人

アーバンデザインセンター松山の活動を通して、街づくりに関する見識を深めることができました。結果的にコロナ禍でイベントを実施することはできませんでしたが、フィールドワークやミーティングを通して、松山駅をより良くするために活動できたため、充実感があります。松山駅チームの皆様、ありがとうございました。

眞部 良輔

社会人

グループ間でのミーティングやフィールドワークを通じて、自分自身にはなかった考えを得ることができました。残念ながらイベントの開催は実現できませんでしたが、現状の駅の課題を踏まえたイベントの立案ができたと思います。

太宰 誠

社会人

仕事の都合上、参加できないことが多くあり迷惑をかけ申し訳なかったと思います。今後何か機会があればよろしくお願いします。

福富 涼加

学生

私達の班は、「駅待ち時間を豊かに」という目標を掲げ、駅前芝生広場の設営と参加型のランタンイベントの企画を行いました。駅が地域の街づくりの現場で活躍されている社会人の方々と学生が協力して、駅空間について考えることができ、大変勉強になりました。約1年間、ありがとうございました。

崎山 久美子

社会人

それぞれ立場が違う中、慣れないWEB環境での打ち合わせを用いてのグループ活動は、普段の業務とは違う難しさを感じました。将来の松山駅を考えたイベントを予定していたので、実施できなかったのは残念でしたが、とてもいいグループ活動になったと思います。約1年間の活動ありがとうございました。

橋本 美月

学生

コロナによる制限や駅前広場の利用制限が多くある中で、活動できる精一杯の提案をグループで考えた経験は、実現しなくとも良い経験となりました。

Project 02

花園グループ

Member | 阿部 光、木下 朋香、平塚 愛生、細川 直央人、東 賢吾、仲岡 光生

Mentor | 板東 ゆかり



Area introduction

花園町通りは、松山の交通の結節点、松山市駅と堀之内（城山公園）を結ぶ全長約 250m の通りです。かつては通行量の減少や空き店舗の増加、大量の放置自転車やアーケードの老朽化などさまざまな課題を抱えていましたが、約 7 年をかけて市民との対話や社会実験を繰り返し、今の姿に生まれ変わりました。整備により 6 車線あった車道は 2 車線まで減少、自転車道も整備され、広がった歩道にはウッドデッキやベンチ、俳人 正岡子規にちなんだ植栽や俳句ポストが設けられました。毎月第 3 日曜日には「お城下マルシェ花園」、第 4 日曜日には「まつやま花園日曜市」、毎週土曜日には「産直市」が地元主体で開催されています。





笑顔つながる ひろがる団らん プロジェクト

「花園町通り」は2017年にリニューアルが完了した松山市のシンボルロードです。リニューアル直後から地元主体で賑わいイベント等が開催され、2019年からはUDCMが利活用の社会実験等に取り組み始めるなど、公共空間を使ったまちの楽しみ方、過ごし方の下地が形成されつつあります。一方でCOVID-19は花園町通りに大きな影響を与えました。状況の変化とともに多くの方の生活、

まちへのかかわり方が今も変わり続けています。そういった状況下でまちのことを学び、グループメンバーで考え出した企画が『笑顔ひろがる つながる団らんプロジェクト』です。通りを、目の前の人を自分たちなりに元気づけたい、笑顔にしたい。そのことで、また別の誰かを笑顔にしたいと考え、通りの中で笑顔につながり、団らんのようなあたたかい場をつくる3つの企画に取り組みました。



1 えがおの写真展 ※ 2022.3 にグループ単独で実施済

花園町通りにはいろんな使い方があったことやその可能性について表現したく、地元やUDCMのこれまでの活動写真を展示しました。花園町通りで照明柱を利用した展示をおこなうのは今回が初めての試みでした。



2 はなぞのくじ ※ 2022.3 にグループ単独で実施済

花園町通りの魅力をもっと知ってほしいという思いを込めた『はなぞのくじ』をつくりました。くじ箱は通りの3か所（UDCMと通りの2店舗）にわけて設置し、くじを集めるともらえる記念品や大吉特典を用意し、通りでくじ引きを楽しむ工夫をしました。



(C) SHUHEI MIYAHATA

3 こたつ de 団らん

UDCMもぶるラウンジ前通りにこたつを設置し、誰でもふらりと立ち寄れるぬくもりの空間を企画しました。こたつの隣にはキッチンカーが出店し、温かい飲み物などを販売する予定でした。

From Commentator



(C) YOSUKE SUZUKI

伊藤 香織

東京理科大学 教授 /
UDCM プロジェクトディレクター

すごい楽しげでいいなあって思いました。花園町通りっていうのを楽しめるかな、楽しもうかなっていうのを実感持って考えているんだなっていう感じがして、非常に良いと思います。おみくじは、半分メッセージツリーに貼れるっていうその参加性がいなあと。おみくじってその人、引いてくれた人に対する言葉のプレゼントみたいな感じがするので、いい言葉をプレゼントみたいなものもあるし、ただもらうだけでなく、自分も返せるみたいなアイデア、そういうのがあっては凄いいいなって思います。

2021年12月3日プラン発表会での講評より

スクール活動を終えて

細川直央人

学生

最初、アーバンデザイン・スマートシティスクールの募集の広告には、アーバンテラスを作ると書いていたので、どのようなテラスを考えるのかと疑問に感じていました。しかし、実際には、各々のグループで考えた企画を実施するということで、初めてながら楽しみがありました。このスクールは、非常に楽しく、様々なことが学べました。また、グループ活動を通じて、議論やアイデアの多様性ということを学ぶことができました。本当にありがとうございました。また、来年度も本スクールで活動したいです。

東 賢吾

社会人

リニューアル事業が完成して久しい花園町通りにもまだまだ伸びしろがあることが分かりました。他の商店街や団体と連携して歩行者空間の活用方法を考え、街の活性化が進んでいくことを期待しています。

阿部 光

学生

今回受講をしてみて、自分にはできないだろうと思っていたことがたくさん実現することができて、とても良い経験になりました。地域の活性化という面でどのようにしたら賑わうのか、目を惹いてもらえるのか、グループのメンバーと情報共有をしながら楽しく活動ができました。改めて、花園グループの皆さん、本当にありがとうございました！

板東 ゆかり

メンター

受講生の皆さん、活動おつかれさまでした。普段、皆さんが学校や職場では交わらない人や事と出会い、そこから新たな学びや気づきにつながるお手伝いができればと思いながら携わっていました。全ての活動プランを実施することは叶いませんでしたが、一緒に議論し、準備に取り組めたことは大きな財産です。私自身、改めて、まことに関わることの大変さとその多様さを学ぶことができました。約1年間、ありがとうございました。

平塚 愛生

学生

活動に参加してみてグループメンバーのみなさんとそれぞれの個性を活かしながら活動に取り組むことができたことは大変いい刺激になりました。今回のこのグループメンバーだったから生まれたアイデア、メンバーのみなさんの力のおかげでそれらを実現できたのだ感じます。花園グループの皆さん、本当にありがとうございました。

仲岡 光生

社会人

2021 年度活動お疲れ様でした。花園応援隊として活動できたことはとても楽しかったです。コロナ禍で最大限のパフォーマンスは出来ませんでしたが、今できることを精一杯できたと思います。また、花園や松山の新たな一面を発見出来たら良いなと思いました。皆さんお疲れ様でした！

木下 朋香

学生

社会人や学生が集まり地域課題解決に向けてどのようなアプローチができるのか考える機会になりました。自分では思いつかないような斬新なアイデアを聞けて楽しかったです！

Project 03

まちなかグループ

Member | 大西 桃果、正岡 采莉、吉松 音々、和田 留奈、清水 朱里、山本 千絵

Mentor | 片岡 由香



Area introduction

まちなかの骨格を成す中央商店街は、国道11号を入り口とする全長483メートルの「大街道商店街」が南北に通り、商店街の南端から西へと全長約600メートルの「銀天街商店街」に接続し、西の端は松山市駅へと続いています。かつての商店街南部と銀天街商店街が交差する湊町は、魚屋や惣菜店などが並び「魚の棚（うおのたな）」と呼ばれる庶民の市場としての役割を果たしていた場所です。中央商店街の歴史は古く、大街道商店街の北端には、かつて正岡子規と夏目漱石が見物した芝居小屋（新栄座）があり、まちなかに芝居小屋が点在していました。文学ゆかりの地をいま訪れるとその多くは形を残さず、なかなかその土地の歴史に気づくことができなくなっています。





銀天街商店街近くの路地裏

知らない「まちなか」に出会う

松山のまちなかと言えば、城下町の町割りを継承した構成を下敷きに、中央商店街を中心として東に飲み屋街、西に官公庁や企業ビルの立ち並ぶエリアと、賑やかなまちの中心地として認識している方が多いのではないのでしょうか。まちなかグループは、コロナ禍の影響もあり、まちなかを歩いて楽しむ機会が少ないことや来訪者の減少に端を発し、まちなかを散歩してもらい知られざる魅力を感じ

てもらえないかと考えました。今まで知らなかったまちなか、普通に歩くだけでは知ることのできないまちなかに出会っていただくため、視覚的に文学のまちについて体験してもらうことができないかと、スマートフォンを活用したまち歩きイベントを企画しました。このイベントを通して、今まで知らなかった新しいまちなかに出会ってください。



スタンプラリー×謎解き×タイムスリップ (いまむかし)

スマホを片手に、まちなかの各所で謎解きをしながら自由にまち歩きするスタンプラリーイベントを企画しました。松山のまちなかはコンパクトで歩きやすく、散歩途中にひと息つけるお店も充実しています。誰もが一度は足を踏み入れたことのあるまちなかですが、昔から変わらないもの、全く変わってしまったものが混在し、それがまたこの街の魅力にも繋がっています。今まで何となく通り過ぎていたあの場所、気になっていたけれど良く知らないあの場所、誰もが知る王道からマニアックまで様々なスポットを巡り「新しいまちなか」を発見してもらうことを目指しました。



こだわり

企画を進めるにあたり、まちなかグループの愛称である「まちなかおさんぽ☺ (MOC)」のロゴを制作しました。また、Twitter や Instagram を使った広報活動にも力を入れ、イベントに関心を持ってもらえるような工夫を重ねました。

Twitter・Instagram アカウント ▶ @moc_matsuyama

From Commentator



羽鳥 剛史

愛媛大学 准教授 / UDCM 副センター長

タイムスリップと街歩き、非常にいい取り合わせだなと思いました。街の見方や街並みって当然、今あるその風景だけがすべての見え方ではなくて、やっぱりその地域に昔あった地物なり歴史なりそういった地域ならではの見方っていうのが、今はなくなっても必ずあるはずで、そこを見ながら今の街並みを歩いていくというのはそれ自体、非常に意義深いことだと思います。あとは、それをどうやるのかというところを色々工夫してもらえればなというふうに思いました。

2021 年 12 月 3 日プラン発表会での講評より

スクール活動を終えて

正岡 采莉

学生

まちなか班としてまちなかを大きく捉え、広範囲で松山を楽しめるような企画を考えていく過程は楽しかったです。コロナ禍でイベント開催が遅れてしまいましたが、一人でも多くの人々がまちなかで新しい発見をしてくださると嬉しいです。今回の企画が、人々がまちなかを楽しもうとするきっかけとなることを期待しています。

清水 朱里

社会人

コロナ禍ということもあり、オンラインミーティングも多く、思うように進まないこともありましたが、普段関わることのない方々と活動できて大変勉強になりました。ありがとうございました。

山本 千絵

社会人

最初はアーバンデザインのことを知りたくて参加しました。まちなかグループで一緒になった学生の方たちと意見を出し合い、手探りのなか、企画を進めていきました。うまくいかなかったこともありましたが、とてもいい経験になりました。まちづくりの活動には、積極的に今後も関わっていきたいです。ありがとうございました。

片岡 由香

メンター

みなさん、スマートシティスクール、おつかれさまでした。聞き慣れないスクールのテーマに初めは戸惑いもあったと思います。また、コロナ禍でうまくいかなかったこともあったと思います。それでも最後まで関心を持ち続け、企画から調査、実践まで進められたこの経験は、今後に是非活かしていただきたいと思います。

和田 留奈

学生

様々な人たちが集まって一つのことにに対して向かっていくことの難しさを痛感しましたが、それぞれ頑張って自身の役割をこなしていたと思います。

吉松 音々

学生

状況が二転三転したこともあり、とても難しいプロジェクトでした。しかし、最終的に形にすることができ良かったです。特に撮影が思い出に残りました。カンペや撮影などご協力いただきありがとうございました。貴重な経験になりました。

大西 桃果

学生

松山のまちなかを活性化させるために、自分たちが課題と感じている点はとても似ていると思いました。課題を解決するためにイベントという形を通して試行錯誤しながら取り組めたことはとても貴重な経験で、充実していました。時代の流れ、ニーズに合わせて対応することの重要性を実感しました。

Project 04

道後グループ

Member | 安倍 ひより、小川 真夢、竹原 悠花、高田 まつり、増田 千哉、和田 奈々、高市 龍介、藤田 遼

Mentor | 力村 真由、四戸 秀和



Area introduction

かつて上人坂は宝厳寺の門前町として歴史が始まりました。宝厳寺は時宗の開祖として知られる一遍上人（いっぺんしょうにん）の生誕地として、愛媛県指定史跡となっていますが、その参道の上人坂はネオン坂と呼ばれていた過去があり、夏目漱石の名著「坊っちゃん」では花街として描かれています。また、正岡子規は 遊郭の並ぶこの坂を通り、宝厳寺の山門で「色里や十歩はなれて 秋の風」と詠んだ、歴史深い場所でもあります。2015年に策定された「道後温泉活性化計画」では重点整備エリアに指定され、賑わいと歴史を感じられる空間づくりを目指し、計画が進められています。





新たな上人坂で賑わいをもういっぺん

私たち道後グループは「新たな上人坂で賑わいをもういっぺん」というコンセプトを掲げ、道後地区の上人坂エリアにて、イベントを企画しました。上人坂は昔、宝厳寺の門前町として人が集まり、活気に満ちていました。現在は昔の印象とは異なり、人通りが少なく、駐車場や空き地が目立っている状況です。一方で、宝厳寺の再建やひみつジャナイ基地の設置、地域住民による様々な活動が活発化してきており、今後、

道後地区においてさらに発展していくエリアでもあります。道後全体においても「道後温泉活性化計画」の重点エリアとして上人坂エリアを掲げており、上人坂の整備による観光客の回遊性向上を狙い、道後温泉本館に依拠した観光の脱却を図っています。私たちは、これら道後地区全体の問題と向き合い、今回のイベント開催を通して、上人坂から賑わいの連鎖を広げ、道後全体を盛り上げることを目指しています。



1 いっぺん袋をぶらさげて歩く

初めて道後を訪れた人にも、何度も訪れたことがある人にも、まち歩きをもっと楽しんでもらうために、道後の魅力を詰めた「いっぺん袋」をぶらさげて、上人坂周辺を散歩する企画を考えました。



2 滞在施設

上人坂には人が集い賑わう2つの滞在施設の設置を企画しました。温かい甘酒を飲みながら、俳句を詠んだり、おしゃべりをしたり、思い思いに過ごせる空間になるよう工夫しました。



3 捨莉紙体験

灯りのイベントに合わせて、宝蔵寺で販売している捨莉紙体験ができる企画を考えました。

捨莉紙とは

「捨聖（すてひじり）」と尊称される一遍上人の「捨てる思想」をコンセプトにした宝蔵寺の新しい開運アイテムです。

From Commentator



(C) YOSUKE SUZUKI

伊藤 香織

東京理科大学 教授 /
UDCM プロジェクトディレクター

光を持ってる人たちが歩いてだんだん集まって来る様子がイメージできて、素敵な風景だなと思います。人っていうのは景観の一部だと思うんですが、それがより可視化、顕在化するようなアイデアだなと。せっかく光を使うんだったらみんなが集まって協力しないとできないみたいな、暗いと見えないけど5人くらい集まると見えるみたいな仕掛けとかも面白いかも。あと、夜ならではの楽しみ方をうまく一緒にできるところを探せたりすると、みんな参加しておかなきゃ！みたいになるんじゃないかなって思いました。

2021年12月3日プラン発表会での講評より

スクール活動を終えて

和田 奈々

学生

最終的に人数は減ってしまった道後メンバーですが、実際にできるメンバーで現地調査やイベント企画・道後の回遊性や上人坂の認知度の低さの問題を解決するためにいろんな仮説やイメージをできたことなど今回参加することができてとても良い経験になりました。メンバーとしてあまりお役に立つことはできませんでしたが、道後班でいっぺん袋などの素敵なイベントを企画することができてよかったと思います。

高市 龍介

社会人

社会人になり、なかなか学生の方と議論する機会がない中、今回のスクールを通して改めて自分の考えを伝えることやグループとしての意見を取りまとめることの難しさを学んだ。その中でも道後グループはリーダーを始め、しっかりとしたグループメンバーばかりでしたので私自身とても助けられ、いろいろと吸収できる良い機会となりました。また、先生方の話し方、考え方など今後の社会人生活にとっても活きるものとなりました。

高田 まつり

学生

上人坂の歴史をどのように継承するのかという点に最も苦労しました。道後グループのみなさん本当にありがとうございました！

四戸 秀和

メンター

道後グループが企画した「いっぺん袋」の、歩くことがより楽しくなるアイテムが必要であるとする考え、そしてそれを持った人が歩くことでまちが明るくなるというアイディアは、道後に限らず、「歩いて暮らせるまち 松山」にとって、とても意味のある提案だと思っています。社会実験は延期になってしまいましたが、いつかこの企画が実現されることを、一道後・松山ファンとしても願っています。

安倍 ひより

学生

自分たちで最初からイベントを企画することは難しく大変でしたが、とても良い経験になりました。道後には何度も訪れたことがありましたが、今までとは違った視点からこの地域について考えることで、これまで気づかなかった魅力や、地域に対する熱い思いを持つ人々がいることを知り、道後が更に好きになりました。

竹原 悠花

学生

道後について考えたい、学びたいと思い入った道後グループですが、初めて知るメンバーと道後解決に向け考えれたことを嬉しく思います。初めてのフィールドワークや、みんなで集まって相談し合うことは最初上手くできるかなと不安を感じていましたが、いいアイデアを作れたことが大変良かったです。

藤田 遼

社会人

スクール活動を通して、普段あまり関わることがないような方達と直接お話を聞いたり意見交換することができてとても貴重な経験をさせていただきました。まちづくりをするためには個人の力だけではどうしてもなく、公民学そして地元の方の協力無くしては前に進まないことを改めて実感しました。イベントは開催できずに残念でしたが、他のグループの発表や講義を受けて、まだまだ松山の知らないところが沢山あることを知ったので、これからも松山の魅力や文化、歴史について積極的に理解を深めたいと思いました。

Project 05

モビリティグループ

Member | 城野 彩乃、須賀 拓実、松本 亜子、鈴木 瑠南、岡田 直大、森田 俊光、山之内 崇

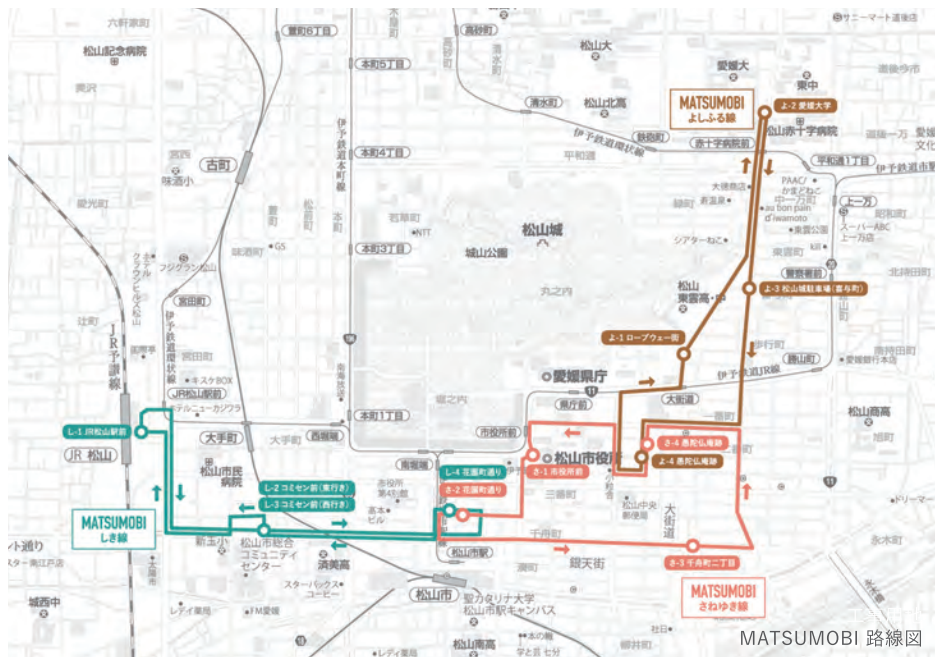
Mentor | 三谷 卓摩



Area introduction

松山では、郊外で活動する人々の増加がまちなかの魅力度の減少や賑わいの喪失につながっており、中心市街地の大きな課題となっています。一方で、バスや鉄道などの公共交通利用者は、ここ 20 年、横ばいの状況が続いていましたが、COVID-19 の影響により、その減少が深刻になることが予想されます。これらの課題を解決する方策として、スマートシティや自動走行システムを組み合わせながらデータを収集することで、まちなかでの回遊性の向上などを目指し、将来のモビリティサービスや未来の松山のありかたについて検討をおこなうこととしました。





MATSUMOBI 路線図

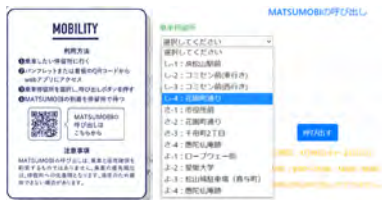
マイカー less！移動ストレス less？プライスレス？

将来のモビリティサービスのかたちとして、urban design week. のさまざまなアクティビティをつなぐ車両であるMATSUMOBIを提案しました。

MATSUMOBIは、公共空間や駐車場空地などを停留所として有効活用し、必要性に応じて柔軟に利用できる予約システムや、自動走行車両導入の初期段階を想定し、既存の公共交通機関（バスや路面電車）と重複しない短距離かつ巡回型

のルートを設定しました。

さらに、まちなかでの回遊性の向上や移動手段に対する意識の変化について、定量的に把握する方法として、利用者アンケート調査やミクロ交通シミュレーションモデルによりシナリオ検証を実施することで、「自動車に依存しない居心地よく、歩きたくなる街」松山を実現することを目指しました。



1 モビリティ (MATSUMOBI) の運行ルート

短距離かつ巡回型の3つのルートを定路線として設定しました。路線は松山の歴史的な人物の名を冠に「しき線」「さねゆき線」「よしふる線」とし、各ルートに4か所程度の停留所を配置しました。

2 モビリティ (MATSUMOBI) の呼び出し機能

モビリティを利用する場合、利用者は乗降したい停留場に行き、パンフレットあるいは看板のQRコードからWEBアプリにアクセスします。アプリで乗車停留所を選択し、呼び出しボタンを押すと、MATSUMOBIが停留所に向かい、乗車することができます。

3 実証結果から描く未来シミュレーション

MATSUMOBI 利用者のアンケート調査とGPSアプリの位置情報をインプットデータに、松山の未来シミュレーションを行い、自動走行車両の導入が、人の移動・活動やまちなかにどのような変化をもたらすのかを予測します。

From Commentator



大山 雄己

芝浦工業大学 准教授 /
UDCM プロジェクトディレクター

たくさんのイベントが街中で同時に開かれて、自動運転で繋がって、さらに効果計測や将来のシミュレーションの方針もあり、すごくワクワクする提案だと思いました。データを使いこなしていた点も、凄くかっこ良かったです。自動運転を導入することで現状の回遊がどういう風に変わりうるのかということについて、銀天街や大街道との関係性も考えながら提案していけるといいなと思いました。

2021年12月3日プラン発表会での講評より

スクール活動を終えて

鈴木 瑠南

学生

私は、「社会人や他の大学生と一緒に一つのことをすること」に強い興味を抱き UDS への参加を決意しました。毎週のグループでの会議では、会議の場での司会進行の仕方やパワーポイントの作り方、積極的に質問や意見を言うことの大切さなどを同じグループの先輩方から学ぶことができ、私自身、モビリティグループにいたからこそ成長することができたと思います。UDS に参加したことは私にとって良い刺激になり、また新たな目標となる方々に出会えたので有意義な活動になりました。

城野 彩乃

学生

約 1 年間、お世話になりました。スクール活動を通して、他大学や他学部の学生や社会人の方と一緒に松山について考えることができ、とても貴重な経験をすることができました。コロナ禍ということで、オンラインの打ち合わせが多かったり、実証実験が開催できなかったりという心残りの部分もありますが、資料作成や発表での見せ方など社会人の方々に教えていただくことで学ぶことができました。今後もどこかで関わることができればと思っています！本当にお世話になりました！

須賀 拓実

学生

所属・立場が違う学生・社会人が一緒になって、自動運転時代の松山の将来について真剣に議論できて、大変充実した時間でした。現地での実証実験→シミュレーションがコロナでできず心残りですが、東京からの参加でもあたたかく受け入れてもらい、提案まで持って行けたのは、モビリティ班の皆様本当に感謝しています。

松本 亜子

学生

初めのうちは、周囲の期待に添えられないことから自分の力不足を何度も痛感しました。しかしながらこの 1 年間を通して、限られた時間や労力の中で、仲間と協力して膨大な仕事を処理したり等、貴重な経験を積むことが出来たと考えております。最後にモビリティチームの皆様、誠にありがとうございました。

山之内 崇

社会人

メンター三谷さん含め、モビリティグループのメンバーと出会えたことが、一番の財産となりました。この関係が今すぐどうなるものではないと思いますが、きっといつか何かにつながると信じて、その時を楽しみにしておきます！また、素晴らしい動画、トークテラス代替など非常によかったです。UDCM 関係者の皆さまにも感謝！

岡田 直大

社会人

学生と社会人が協力してイベント内容を練り上げていく活動は、自分の人生においてとても素敵な経験だったと思います。普段は決まったコミュニティの中でしか人と出会いませんが、このスクールでは様々な方との出会いがあることで、異なる視点・考え方を共有することができました。スクールで出会った方とは、今後も繋がっていけるとうれしく思います。

森田 俊光

社会人

スクールへは自発的な参加ではありませんでしたが、スクールを終えた今、会社から参加の指示を受けて本当に良かったと感じています。まちづくりの知識を少しでも習得できたことはもちろん、同じグループの方々を中心として、このスクールが無ければ出会うことも無かったであろう人たちと繋がりを持つことが出来たからです。

三谷 卓摩

メンター

初めての取り組みということで、メンターとして手探りの部分も多かったですが、グループの受講生が自分の個性（学生の素直さや社会人のスキルや経験）を持ち寄ってできたのが嬉しかったです。モビリティは、専門的な事前知識がない学生には少しハードルが高い部分があったので、教科書的なものを準備し、ツールの紹介やそれを用いた作業を効率的に示せなかったことを反省点としたいです。

Project 06

行動分析グループ

Member | 小川 大智、菅井 稜真、土田 聖、北島 俊哉、福嶋 利昭、弓立 真紀

Mentor | 石飛 直彦



Area introduction

松山市では「歩いて暮らせるまち松山」の実現に向けて、歩行回遊空間・にぎわい空間の創出のため、ロープウェイ通りや花園町通りが整備され、中心市街地と道後を結ぶネットワークが形成されつつあります。そして「まちなか」「松山城」「道後」の回遊性は向上し、毎年多くの観光客が松山を訪れています。しかし、「道後」の回遊性に注目してみると、観光客は道後温泉本館周辺に多く集まり、その他の歴史的な観光施設に足を運んでいる人は少なく、観光客が寛ぐ空間が少ないことが現状です。道後を訪れた観光客を対象としたアンケート調査では、道後を観光地として選択した理由に「魅力的な歴史・文化があるから」「のんびりできるから」などの回答が大半を占め、数ある道後の魅力的な歴史施設が活かされていないことが示唆されました。そのため、このような課題に対する施策や持続的な活動を検討する必要があります。

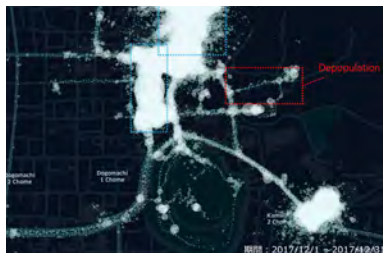




見えない行動を可視化する

私たち行動分析グループでは「見えない行動を可視化する」ことをコンセプトに、道後を対象に分析を進めてきました。近年、ロープウェイ通りや花園町通りなどの歩行回遊空間の整備が進められ、松山中心市街地の回遊性は向上し、多くの来訪者で賑わっています。道後においても歩行空間が整備されたことで、来訪者の快適な回遊空間が実現しました。しかし、道後内の回遊性は特定の場所에만集中し、あまり知

られていないような歴史施設にほとんど人が訪れておらず、道後の魅力的な観光資源を活かしきれていないことが課題でした。このような背景から、私たちは道後の来訪者が、どの施設に訪れ、どれくらい滞在し、どのルートで次の目的地に訪れたのかといった「回遊行動」や、それらの「行動に与える要因」、そして「地域の現状と課題」を明らかにすることで、その課題にアプローチするための分析を計画しました。



1 現状調査 (GPS)

道後の宿泊客に GPS ロガーを持ち歩いてもらい、GPS ロガーによって取得した行動データ（2017 年時）を分析・可視化し、課題や現状を把握します。

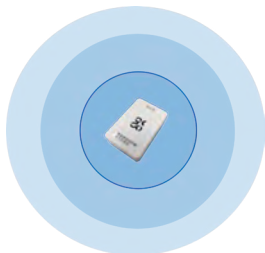
(GPS ロガーとは)

5 秒ごとにその場の位置情報を記録する機器



2 滞留調査 (固定カメラ)

上人坂周辺に設けられる 2 つの滞在施設に固定カメラを設置し、人が滞留している様子を撮影します。撮影した映像データを AI アルゴリズムで解析し、行動のデータ化、目に見えるように可視化します。歩行者の服装、性別なども推定可能です。



3 行動調査 (Bluetooth 検知器)

道後全体をカバーするように機器を設置し、スマートフォンから発せられる Bluetooth の電波を記録します。検知器を複数設置することで人の移動を追うことができます。

From Commentator



大山 雄己

芝浦工業大学 准教授 /
UDCM プロジェクトディレクター

すごく丁寧に分析されていて、課題認識がうまくできてるなと思いました。もう一步、深めたいなと思った時に、行動がいまは「なぜ」そういう風になっているのかということを考えると、イベント班の提案などともつながってくると思います。例えば、配られたマップや情報提供のされ方などを調べると、どういう情報を得たからどこに行っているという理解につながって、現状のマップの改善につながるかもしれません。

2021 年 12 月 3 日プラン発表会での講評より

スクール活動を終えて

菅井 稜真

学生

同じグループで協力するうちに学年や学校を超えた友達ができ、将来の進路にとって良い刺激を与えてくれました。学校の授業で習ったことを実世界で使ってみるとうまく行かないことがほとんどで、学校の授業だけでできた気持ちになっていた自分のちっぽけさに気付きました。

福嶋 利昭

社会人

行動分析は、今まで携わったことのない分野であったため、分析手法・考え方・使用機材等どれも新鮮で勉強になりました。まちづくりへの興味・関心が参加前と比べて高まり、とても良い刺激を頂きました。

北島 俊哉

社会人

メンバーの皆さんには行動分析という難しいテーマの中、積極的に取り組んでいただき、各々が新たな知識や技術を身に着けることができましたと思います。私自身も、色々な方と関わることができ、貴重な経験となりました。そして、運営の皆様のご尽力で、素晴らしいスクールになったことと思います。ありがとうございました。

石飛 直彦

メンター

「人の行動」という、目に見えないものを分析することで、様々な事象が見えてくる面白さを知ってもらう良い機会でした。現場でのデータ収集は叶いませんでしたが、データに触れてみて、どのように使えるのか、何がわかりそうなのか（わかったのか）を考えてみる経験は、行動分析だけでなく、様々な分野で役に立つと思います。今回の取り組みをきっかけに、データや分析がより身近なものになれば幸いです。

小川 大智

学生

行動分析ということで、GPS データで人の位置を追ったり班で議論したりすることを通じて、道後での回遊について多くに気づきがありました。コロナの影響で思うように活動ができないこともありましたが、イベントによる回遊、滞在の変化の観測や予測の部分含め、引き続き機会があれば活動に関わってみたいです。

土田 聖

学生

今回、初めて行動分析に携わることになり、何も分からない私に石飛さんをはじめ、グループメンバーの方は細かいところまで指導してくださり、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回、学んだことをこれからの活動に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

弓立 真紀

社会人

UDweek. の延期は残念でしたが、地元の人、学生、社会人など活動を通じて関わり、松山のまちづくりに関心を持つきっかけが出来たと思います。ありがとうございました。

スクール TA 感想コメント

村上 悠斗

修士2年

コロナ禍でのスクール活動を陰ながら支える立場として、何ができるだろうかと考えてきた中で、現場でのまちづくりの面白さや難しさを実感しました。そしてこのスクールを通して、少しでもまちのことを考えながら過ごす人が増えるなど、みなさんのこれからの日常生活に変化が生まれたり、とても嬉しいです。愛媛松山、大好きです。ありがとうございました！

中出 舞

修士1年

コロナ禍でのスクール開催でしたが、グループごとに工夫を重ねながら、活動に取り組まれている姿を見て、私自身もたくさんのことを学ばせていただきました。スクールを通して得られた経験や出会いが、皆さまのこれからの活動に生かされていくことを心から願っています。1年間、本当にありがとうございました。

桂川 大誉

学部1年

自分はスクールの補助の形で参加させていただきましたが、皆さんが松山をより良い空間になるようにグループワークやフィールドワークを重ねている様子を見て、松山について本気で考える人がこんなにもいると感動しました。今回は見るだけになっていましたが、これから自分も考えられるようになっていきたいと思います。

松尾 悠馬

学部1年

TAとしてスクール活動に関わりましたが、それぞれのグループの活動内容や目標設定、取り組みは素晴らしいものでした。今回、イベントを行うことはできませんでしたが、スタディツアー動画として、成果を記録することができた点は良かったと思います。また、運営側として必要なスキルを学ぶことができて良かったです。

※当時の学年



「アーバンデザイン・スマートシティスクール松山」の取り組みが 令和4年度 都市景観大賞(景観まちづくり活動・教育部門)にて 「優秀賞」を受賞しました。

都市景観大賞 景観まちづくり活動・教育部門 とは

地域に関わる人々が景観に関心をもち、自らの課題として捉え、その解決に向けて活動できるよう意識啓発、知識の普及、景観制度を活用した取組等による活動を対象にした、都市景観大賞の1部門です(全2部門)。国土交通大臣賞である「大賞」のほか、「都市景観の日」実行委員会会長賞として、「特別賞」及び「優秀賞」があります。



表彰盾

審査員講評 | 福井恒明 (法政大学 教授)

松山アーバンデザインセンターの活動は、花園町通り改修や地域の景観資源を使いこなす多くの成果を生み出してきた。これらは公民学の連携を重ね、地域の仕組みとして定着させてきたことの賜物である。こうした活動を長期間維持する際には、担い手の入れ替わりによる停滞の回避や、活動が途切れなようなプログラム企画がポイントになる。本活動ではディレクターを若手研究者や市派遣者が担い、高校生から大学院生の幅広い年代の若者が参加することによって、継続的な担い手確保と理解者支援者の拡大が実現している。それに加えて交通分析の可視化や最先端技術の導入など、他地域では一般的でない分野の研究者・技術者の参画により、まちづくりのイメージを変える戦略的な取り組みが行われている。松山では今後も重要な公共空間の整備が続く。アーバンデザイン・スマートシティスクールの活動が奏功し、市の骨格が豊かな空間として実現し、それを使いこなす市民の活動が継続していくことを期待する。

新型コロナウイルスの影響により、受講生が準備を進めてきた活動プランの実施（社会実験urban design week.）は見送られました。そのため、本年度のアーバンデザイン・スマートシテスクールでは、以下のような代替企画を実施しました。

受講生インタビューリレー動画「未開催ツアー」

本動画は、準備を進めていた各グループの敷地や活動プランなどを「未開催ツアー」として辿りながら、現在の松山のまちを記録したものです。2022年4月の修了式にてお披露目し、現在は右記QRコードからご視聴いただけます。



アーバンデザイン・トークテラス

松山に関わってくださろうとしている建築家、デザイナー、研究者の方々をお招きし、まちについて、松山について、urban design week.について、さまざまに語らう座談会です。2022年1月にオンラインで実施した各トークのアーカイブ動画を、下記のQRコードからご視聴いただけます。

#01 「松山と都市デザイン」

登壇者

伊藤 香織（東京理科大学 教授 / UDCM プロジェクトディレクター）
中出 舞（愛媛大学大学院 修士1年 / スクール TA）
羽藤 英二（東京大学 教授 / UDCM センター長）



#05 「新しい空間像」

登壇者

西澤 徹夫（西澤徹夫建築事務所）
浅子 佳英（PRINT&BUILD/UDCM プロジェクトディレクター）
森 純平（東京藝術大学 助教 / 一般社団法人 PAIR 代表理事）
羽藤 英二（東京大学 教授 / UDCM センター長）



#02 「街路のデザイン」

登壇者

吉谷 崇（株式会社 設計領域 代表取締役）
新堀 大祐（株式会社 設計領域 代表取締役）
羽藤 英二（東京大学 教授 / UDCM センター長）



#06 「観光とまちづくり」

登壇者

南雲 勝志（国際大学 教授 / ナグモデザイン事務所 代表 / 日本全国エキスポラタ倶楽部 代表）
児玉 千絵（国際大学 助教）
仲野 潤一（国際大学 専任講師）
羽藤 英二（東京大学 教授 / UDCM センター長）



#03 「道後の小空間」

登壇者

力村 真由（多摩美術大学 副手 / スクール 道後グループメンター）
安倍 ひより（愛媛大学 3年 / スクール 道後グループリーダー）
羽藤 英二（東京大学 教授 / UDCM センター長）



#07 「スクール座談会」

登壇者

スクール関係者（受講生・メンター・TA・運営スタッフ他）
羽藤 英二（東京大学 教授 / UDCM センター長）



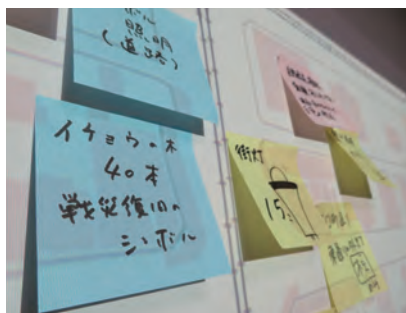
#04 「駅まちのデザイン」

登壇者

乾 久美子（乾久美子建築設計事務所 主宰）
羽藤 英二（東京大学 教授 / UDCM センター長）











アーバンデザイン・スマートシティスクール松山 プロジェクトリポート 2021.7-2022.4

2022 年 7 月発行

編集 板東 ゆかり（UDCM ディレクター）

中出 舞（UDCM 学生スタッフ / 愛媛大学大学院修士 2 年）

松尾 悠馬（UDCM 学生スタッフ / 愛媛大学 2 年）

発行 松山アーバンデザインセンター（UDCM）

｜住所｜愛媛県松山市花園町 4-9 岡田ビル 1 階

｜HP｜<https://udcm.jp>

**Urban Design Smart City School
Matsuyama
Project Report 2021.7-2022.4**